

多様な目線で 行政を考える

沖縄行政評価事務所行政相談課

牧野 智美

MAKINO Tomomi

平成27年 4月 総務省採用
行政評価局総務課地方業務室
平成28年 4月 行政評価局総務課
平成29年 4月 現職



Question & Answer

Q. 出先機関での勤務はどうか？

A. 執務室の外へ出て働く機会の多さに驚いています。行政相談課では、県内各地で相談所の開設やPR活動を行っています。私は宮古・八重山地区を担当しているため、特に離島へ行く機会がとても多いです。離島には離島ならではの課題や問題点も多く、実際に行くことでその問題を実感することもあり、現地に出向くことの大切さを、身を持って感じています。

Q. 入省後、成長したと思うことは？

A. 自分の意見をはっきり伝えられるようになったのではないかなと思います。入省時は自分の考えに自信がありませんでしたが、先輩たちとの会話で物事の見方や考え方を学び、今ではしっかりと理由をつけながら意見を述べられるように。風通しのいい職場環境なので、こうしてはどうかと提案したり、悩んでいることを相談したり、業務について日々議論しています。

■暮らしの中の困りごと、お聞かせください

総務省の行政相談では、国民の皆さんから国の行政などに関する相談を受け付け、相談者と関係行政機関の間に立ち、公正・中立な立場で問題解決のお手伝いをしています。行政相談と聞くと堅いイメージがあるかもしれませんが、しかし実際は、暮らしの中の困った、分からない、こうしてほしいといった事柄について、難しい手続きなしで誰でも気軽に利用できる制度です。

この行政相談を広く利用してもらうために、私たち行政相談課では、総務大臣から委嘱された行政相談委員と協力し、県内各地で相談所を開いたり、様々なPR活動を行ったりしています。平成29年度には、離島市町村である宮古島市で初めて他省庁や県、市町村などがワンストップで相談を受け付ける一日合同行政相談所を開設しました。離島の多い沖縄では、相談したい行政機関が身近にないという環境も多くあり、このように相談機会を提供することも、国民の皆さんの暮らしを良くするための第一歩となっています。

■いろいろな人に会えます

私が総務省に入省することになったきっかけの一つが、「総務省っていろいろなことをやっているとなんだか面白そう!」という気持ちでした。実際に働いてみて、入省前に思っていた以上に総務省の業務の幅はとても広いなと感じています。職員も多様な分野での経験を積まれた人ばかりで、幅広い価値観を日々学んでいます。

また、行政相談の業務に限らず、どんな業務を行う上でも、様々な意見があることを理解した上で、バランス良く広い視点で物事を考えることが大切だと思っています。そのため、こういったたくさんの人たちとの出会いがあることは総務省の魅力の一つだと思います。

たくさんの人たちとの出会いを通して、自身の可能性を広げていきたい人、ぜひ一度総務省に足を運んでみてください。



Private Life

『やりたいことはやれるうちに』をモットーに、あちこち出かけていることが多いです。沖縄に来てからは、海で泳いだり、季節のお祭りに参加したりとますます出かける機会が増えました。たまには、家にもって映画や本をゆっくり楽しむ時間もつくって、バランスを取りながら自分のやりたいことを全力で楽しんでいます。

